

アッセンブリー2017 2nd 乙六番テーブル総評

柴(フェリス4) 五十嵐(立教4)

1. テーブルメンバー
2. 議論の流れ・全体総評
3. 順位と選定理由
4. おわりに

1. テーブルメンバー

雀部(武蔵2)、岡田(高経3)、野村(早稲田2)、新谷(青学3)、金子(青学3)
仲吉(立教2)、向田(明治2)

2. 議論の流れ・全体総評

文責：柴

《Narrowing》

雀部のナローから始まり、オピニオンプレゼンターに雀部・新谷・岡田・金子が立候補する。主にコンパリ idea に関しての Q やダウトが提示され、時間を掛けながらも新谷(青学3)が OP に選ばれた。

《ASQ》

*今回のテーブルでは、ASQ の確認と NFC の確認途中で議論が終了した。

OP の定義の確認は、TG の狭義などの質問を中心に行われた

その中でも野村(早稲田2)が、ASQ で積極的にダウトを提示した。

・腎臓を臓器の定義から外すサジェスション

⇒新谷の C で S の内容を明らかにし、岡田が定義からはずす事によるエフェクトについて Q した。その Q により、野村が腎臓を exclude しないと QL コンパリで AD>DA を話すことが難しくなると分かったが、この場の話はどうするかで停滞し、新谷の“S には乗らない”という発言により収束。(その発言により、野村が QL コンパリゾンで S を話すといったコンプロ)

◎ASQ で提示されたダウトに対して、

コンテンツ・議論への影響・話し方(その場で話すことなら議論)

これらについてきちんと議論されることがなかった。

⇒後の SOH・NFC でも同じような傾向が見られましたが、
idea やダウトに対して

やりたいことは何か⇒それはその場で話すべきじゃない (OP のタスク等として) ⇒じゃあ
(idea プレゼンター) ここで話してみる！

の流れが見られ、話しの重要性や話し方についての議論が欠けていた。

テーブルに出てきた話について、上のような点を忘れず、しっかりとその場の話を解消しながら議論を進めてほしい。

《SOH》

野村の idea

⇒OP は臓器を提供される方法が臓器移植以外に方法がないと定義しているが、
方法がある→そのような方法を使える人が深刻ではない→その人たちをサムカット
したいと、新谷の C でクリアになった。

その後、雀部や岡田が Q をし S 等を試みるが、進めることができず、野村が DA として出
したらコンパリで使えるかと質問し、新谷がその DA を認めると発言したことで収束。

◎idea 検証

→今回のテーブルで気になったことは、idea に対して各々がやりたいこと(S や反論)を持っ
ていて様々な話がテーブルで出てしまい、収束しきれなかったこと。一つの話について議
論をしようとする姿勢が欠けていたように思えた。
これが停滞を招いたと考えている。

*Idea プレゼンターが A だとしたら

A → B(ダウトとか) → C(B とは違う Q) → D(S)

このような流れが繰り返されたことで、idea に対する議論が何 1 つなく終わってしまった。

《NFC》

NFC では唯一、雀部(武蔵 2)が idea に対してダウトを示した。

全ての日本国民は APA で臓器移植に反対するという野村の idea に対して、すべての国民
が反対とは証明できない→なぜなら賛成しているひとの方が多いといった evidence があり、
データが立たないと主張。

しかし野村が自分のエビデンスもあるとし、雀部のダウトを認めなかったため、新谷がエ
ビデンスを使った話は難しいため、アンクリアにしようと言い、OP の NFC のタスクにつ
いての話に移行。タスクの possibility を認めるか認めないかの話になり、雀部が①
possibility を否定する②new area 又は違うエリアで話す といった選択肢を出し、野村が

②を選んだことにより収束した。

◎結局は、認めるか否かの話で終わってしまい、

Idea のコンテンツ・どこで話すべきか・ここで話すなら論点は何か
についての深堀がなく、流れてしまった。

《全体へのコメント》

私からして、今回のテーブルは深度・進度ともに欠けていたように思いました。

2つの理由があると考えています。

- ① 各々が自分の話・やりたいことに集中している
- ② 意図を汲んだ話のトリート・発言の欠如

今回のテーブルは、“正しい流し方について議論をし、本質の内容について触れずに終わる”。
といった印象でした。本質の内容について話さなければテーブルとしては何も話さなかったという事になってしまいます。

各々やりたい事があるとは思いますが、各々が自分の話したい話に集中しているだけでは、何も議論になりません。

2年生は来年のアッセンブリーに向けて、3年生はより理想のディスカッションができるよう、是非自分なりのディスカッションスタイル・セオリーを見つけてほしいと思っています。特に2年生は夏～関西遠征あたりは、テーブルに加えて議論で大事な事について考える・憧れのスタイルを見つけることに時間をかけることをおすすめします。

3. 順位と選定理由

文責：五十嵐

<順位>

- 1位 新谷（青学3）
- 2位 雀部（武蔵2）
- 3位 岡田（高経3）
- 4位 野村（早稲田2）
- 5位 金子（青学3）
- 6位 仲吉（立教2）
向田（明治2）

<選定理由とコメント>

1 位 新谷（青学3）

質の高いCとコンスタントな介入により、議論に最も貢献していたためこの順位とした。Cがテーブルのメンバーの意図を汲めており、議論が前に進む場面が度々見られた。しかし、OPとしての役割を十分に果たしていたとは言い難く、Cの評価の高さもSが少ないテーブルであったからこそである点は反省し、後輩へのエデュケに活かして欲しい。とはいえ、激戦の中ランクを勝ち取った事実になんら変わらない。本当におめでとう。

2 位 雀部（武蔵2）

ASQハンドリングや、高い介入量、アーギュへのobjなどを評価した。1位とは極めて僅差であり、その差は介入のタイプが違ったため一概には言えないが、進度への貢献度とその難易度によって生まれたものと感じる。今回の悔しさは、これからのプレパの原動力にしてください。来年の活躍と、「武蔵の時代」に期待してます。

3 位 岡田（高経3）

介入が限定的であったため上位2人には劣るが、ファシリテーターとしてテーブルに欠かせない人物であった。そのため中立的な立場で橋渡しをするCは高く評価した。アトモスの良さを活かし、CからSに繋げられていれば順位は変わっていたかもしれない。遠方からどうもありがとう。

4 位 野村（早稲田2）

アーギュメンターとして、唯一論点を提示していたところを評価した。一方、アーギュを出すに留まっていた点と自身のアーギュ以外の介入が限定的であった。アーギュを出した後、それを的確に伝え、テーブルメンバーとのクラッシュを整理し、プロシを引くなどをして「議論を作っていくこと」ができれば、来年アーギュメンターとして、名を馳せることができるのではないかな。

5 位 金子（青学3）

介入が限定的であった。今までのプレパ、試ジャッジで学んだことを是非後輩に共有したり、自身の生活に反映させて欲しい。今までやってきたことを意味あるものとするのはこれからだと思います。

6 位 仲吉（立教2） 向田（明治2）

介入がなかったため。周りの同期や後輩の頑張りを見てどう感じただろうか。もし、デイスを始める気持ちがあるのであれば、今からでも全然遅くないとだけ伝えておきます。

4. おわりに

アッセンお疲れさま!(^^)!

いろいろ書きましたがこの総評を今後の成長の糧にしてくれたら嬉しいです！

3年生は現役本当におつかれさま。引退しても、まだまだ伸びます！理想のディスカッションができるようにこれからもプレパにエデュケに頑張るってね！2年生はこれからだと思います。本当に!!! ランク等の目標も大事だと思いますが、それに加えて、なりたい姿を考えて自分を高めていってほしいです！応援しています！